

群 教 七	G05 - 04 平 15.216 集
-------------	------------------------

マルチメディア教材 「アルトリコーダー入門」の作成

特別研修員 後藤 利夫（渋川市立古巻中学校）

《研究の概要》

本研究では、アルトリコーダーによる表現活動で、生徒の関心・意欲を高め基礎的な奏法の定着を図ることを目指したマルチメディア教材を作成した。指使いを中心にアルトリコーダーの基礎的な奏法について、文字で説明したり動画で表示したりして、内容をつかみやすいようにした。また、演奏の様子も動画で視聴できるようにし、読譜力に自信の持てない生徒でも、曲想を感じ取り、それを生かした演奏表現ができるようにした。

【キーワード：音楽 - 中 器楽 アルトリコーダー コンピュータ マルチメディア】

主題設定の理由

アルトリコーダーは管楽器の中では演奏することが容易で、短時間に完成度の高い音楽体験ができる楽器である。演奏法に歌唱との共通点も多いので、音楽表現を学びやすい。また、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの2種類の指使いを学べば、多様なリコーダーアンサンブルにも発展できる。このような特徴により、中学校音楽科で広く使用されており、本校でも歌唱曲の副次的な旋律や鑑賞曲の旋律を表現する活動、簡単な器楽アンサンブルでの旋律を表現する活動でアルトリコーダーを用いている。それぞれの活動の中で、旋律を正しく演奏し曲の持つ美しさを表現するためには基礎的な奏法を身に付ける必要があり、1年生での初期の学習が大切になる。

アルトリコーダーの初期の学習では、学習内容を指使いによって四つの段階に分け、それぞれの学習の段階において一斉指導を中心にし、自己評価や相互評価を取り入れた個別学習時間を含める形で行ってきた。教師がそれぞれの段階の学習内容を説明し、基本練習と課題曲の練習を行ったうえで、生徒各自が自由曲の中から好きな曲を選んで練習し、発表に備えていくという形である。

このような中で、課題となった点は次のとおりである。

説明の中で実際の指使いなど手本を示そうとするが、一斉指導では視認性が十分でなく、勘違いする場合もあった。特に親指の動きは、生徒から見ると楽器に隠れて見えにくい。

また、その場では確認できても、個別学習をする中でサミングの親指の指使いやシャープやフラットがついた音の指使いを間違えて練習し、自分でその誤りに気がつかない生徒もいた。

表現力に差が生まれ、自由に曲を選んで演奏表現の工夫をしたり、二重奏を楽しんだりしていける生徒がいる一方で、自由曲に取り組んでみたいと思っても、自信を持って演奏できず、一斉指導で取りあげた課題曲しか発表につながらない生徒もいた。

こうして、初期の学習からアルトリコーダーへの意欲が薄れがちになったり、学習が進むにつれ、苦手意識が芽生えてしまう生徒も出てしまう状況であった。

このような中で、一人一人の生徒が、アルトリコーダーの基礎的な奏法のポイントを正しくつかみ、表現の工夫をする中で十分に身に付けられるような教材の必要性を感じ、本主題を設定した。

研究のねらい

アルトリコーダーの初期の学習において、意欲的な取り組みを促し、自ら表現を工夫し演奏していけるよう、基礎的な奏法の定着を図ることに視点をあてたマルチメディア教材「アルトリコーダー入門」を作成し、授業実践をとおしてその有効性を検証する。

研究の見通し

アルトリコーダーの基礎的な奏法についての学習内容を文字や図で示したページや、演奏のポイントを書いた動画を準備し、学習段階に合わせて Web 形式でまとめれば、基礎的な奏法の定着を支援するマルチメディア教材が作成できるであろう。

研究の内容

1 教材の概要

(1) 基本的な考え方

本教材は、アルトリコーダーの基礎的な奏法を身に付けさせるため、正しい奏法への理解を深め、練習のポイントをつかみやすくし、生徒自ら充実した練習に取り組めるようにする教材である。そのため、以下のことに留意して教材を作成する。

一人一人の生徒が正しい奏法を自ら確認し、繰り返し練習をするのに適するよう、Web 形式で作成する。

学習の段階を、指使いの難易度によって四段階に分け、それぞれの段階で学ぶ指使いと学んだ指使いを生かして表現する課題曲、自由曲を設定する。また、各段階は、一授業時間で取り組めることを意図して、無理のない選曲や基礎的な練習の設定をする。

動画や静止画を準備し、必要に応じて注意点や演奏のポイントを文字で示して、確実に基礎的な奏法を身に付けられるようにする。

演奏場面の動画は、生徒が自ら演奏している状況に感覚的に近づけるように、アルトリコーダーを演奏する生徒の目線で撮影する。また、実際の手本では見えにくかった左手親指の動かし方も確認しやすいように撮影角度を工夫する。

(2) 教材の構成

本教材の構成は以下のとおりである。

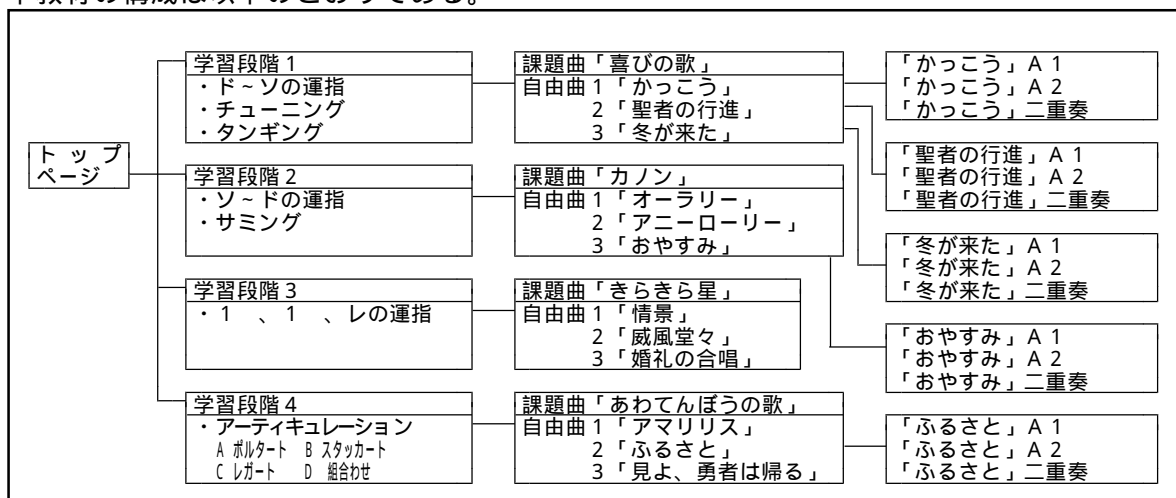


図 1 「アルトリコーダー入門」の構成

2 教材の内容

(1) トップページ

本教材を起動すると、トップページが表示される。ここでは、指使いの難易度による四つの学習段階について、それぞれ概要を説明し、各学習段階のページにリンクを設定する(図2)。

(2) 学習段階1

ア ド～ソの指使い

楽譜に示された音符に指番号を示す。指使いを演奏の様子から確認したいときには、楽譜をクリックするとその音を長く伸ばした演奏の動画が見られるようにする(図3)。「ド」から「ソ」の指使いのうち、左手親指を開放する。「ソ」については、斜め上から撮影した動画を用い、他は生徒が自分の演奏時の視線と同じように視聴できるように、上部から撮影した動画を用いる(図4)。

イ チューニング

「チューニング」のページでは、その必要性や音程の調整の仕方について文字で説明し、オルガンの音にアルトリコーダーの音を合わせるときの音の変化を動画で視聴できるようにする(図5)。

ウ タンギング

音域や曲想によって異なるタンギングの方法や注意点を文字で説明する。楽譜を選んでクリックすると、演奏が聞こえてくるようにする。基本的で中音域に適した「tu」を使った発音を示す(図6)。

エ 課題曲「喜びの歌」

左手の指使いのみでメロディーを演奏でき、ほとんど四分音符でできている「喜びの歌」を課題曲として取り上げる。旋律の楽譜を示すとともに、解説を文字で示す(図7)。「演奏」をクリックすると、曲の演奏の様子の動画が流れる。ここでも指使いの様子がわかりやすいようよう、アルトリコーダーを見下ろしながら演奏する生徒と同じ目線で撮影した動画を用いる。

オ 二重奏

二重奏の曲については、各生徒がそれぞれのパートを練習できるよう、二重奏の動画と、1パートずつ演奏している動画を準備する。練習の過程で、コンピュータから流れるパートと二重奏の練習もできるようにする(図8)。本教材では、二重奏を全体で5曲設定する。

(3) 学習段階2

ア 「ソ」～「ド」の指使い

ここでは、学習段階1で学んだ音域が広がり、右手を用いた音の動きと、左手親指の隙間をあけるサミングの



図2 トップページ



図3 「ド」から「ソ」の指使い



図4 「ミ」の指使いの様子



図5 「チューニング」のページ



図6 「タンギング」のページ

技術を学ぶ。学習段階1と同様に、指使いを演奏の様子から確認したいときには、それぞれの音の楽譜をクリックすると、その音を長く伸ばした演奏の動画が見られるようにする。「ラ」より高い音は、左手親指の隙間をあけるサミングの技法が見やすいよう、斜め上から横にビデオカメラの位置を変えながら撮影した動画を取り入れる。長い一つの音を演奏する間、ゆっくりと撮影の角度を変えることにより、右手の指使いも確認しながら、サミングについての親指の使い方を確認できるものと考ええる。

イ サミング

左手親指の動きのみで「ド」の音が1オクターブ上の「ド」に変わる様子をはじめ、同様の「シ」、「ラ」の音の変化を動画で見られるようにする。左手親指の第1関節を少し曲げるようにして穴の上部に隙間を作る様子を見られるよう、やや斜め後ろから写した動画を用いることとする(図9)。

(4) 学習段階3

ア 1、1、「レ」の指使い

ここでは、学習段階1、2で学んだ音がさらに広がり、より複雑な音と指の動きについて学ぶ。

学習段階1、2と同様に指使いを演奏の様子から確認したいときには、それぞれの音の楽譜をクリックすると、その音を長く伸ばした演奏の動画が見られるようにする。

(5) 学習段階4

ア アーティキュレーション

アーティキュレーションとは、音と音の連結のさせ方のことで、ポルタート奏法、スタッカート奏法、レガート奏法、スタッカートとレガートの組み合わせの4種類の奏法を取りあげる。それぞれの奏法の簡単な説明を文字で示し、記譜上の楽譜の他に休符や記号を使って実際に演奏するときの音の長さを示す。アーティキュレーションによって音楽の表情が変わる様子をつかませるため、同じ曲でアーティキュレーションを変えて演奏する動画を視聴できるようにする(図10)。



図7 「喜びの歌」のページ



図8 二重奏の動画



図9 「サミング」の指使いの動画

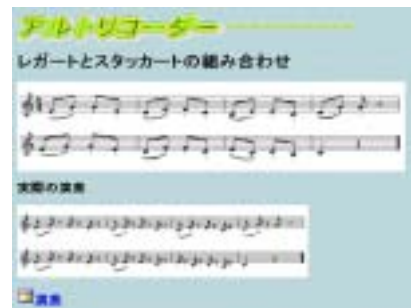


図10 「アーティキュレーション」

3 実践の結果と考察

(1) 授業実践

題材名 「アルトリコーダーの基礎的な演奏方法を生かした表現の工夫」

題材の目標

アルトリコーダーの基礎的な演奏方法や美しい音色に関心を持ち、意欲的に表現活動に取り組もうとする態度を養う。

アルトリコーダーの基礎的な演奏方法や美しい音色を感じ取らせ、曲にふさわしい表現を工夫させる。

アルトリコーダーの基礎的な演奏方法や美しい音色に気をつけて表現する技能を伸ばす。

題材の評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽的な感受や表現の工夫	ウ表現の技能
評価 題材 規の 準	アルトリコーダーの基礎的な演奏方法や美しい音色に関心を持ち、意欲的に表現活動に取り組んでいる。	アルトリコーダーの基礎的な演奏方法や美しい音色を感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫している。	アルトリコーダーの基礎的な演奏方法や美しい音色に気をつけて表現する技能を身に付けている。
学 習 具 活 体 動 の に 評 お 価 け 規 る 準	アルトリコーダーの基礎的な操作方法や美しい音色のための演奏方法に関心を持ち、意欲的に活動に取り組んでいる。 自分にあった学び方を大切にし、意欲的に活動に取り組んでいる。	アルトリコーダーの基礎的な操作方法を感じ取って表現の工夫をしている。 アルトリコーダーの音の特性に気づき、美しい音色を感じ取って表現を工夫している。 曲にふさわしい音色やアーティキュレーションなどの奏法を感じ取り、それらを生かして表現を工夫している。	アルトリコーダーの基礎的な操作方法に気づき、初歩的な演奏方法に気をつけて表現する技能を身に付けている。 アルトリコーダーの音の特性を生かし、美しい音色に気をつけて表現する技能を身に付けている。 曲にふさわしい音色やアーティキュレーションなどの奏法を感じ取り、それらを生かして表現する技能を身に付けている。

指導計画（4時間予定）

学 習 活 動	時 間	学 本 個 一 使 本 習 教 別 音 用 教 段 材 階 の 材	指 導 と 支 援	の 価 題 関 規 材 連 準 の と 評
<p>リコーダーの学習を進めるにあたり必要なコンピュータの扱いを確認する。</p> <p>リコーダーの指番号を確認し、学習に役立てることができるようになる。</p> <p>左手だけを使ったド～ソの指使いを知り、音階の練習を行う。</p> <p>課題曲「喜びの歌」の表現の工夫をする。</p> <p>自由曲「かっこう」「冬が来た」「聖者の行進」から1曲を選び表現の工夫をする。</p>	1	1	<p>本教材は Web 形式で作られていることを知らせる。</p> <p>楽譜と指番号を示し、指使いを確認させる。</p> <p>楽譜に曲の説明が示されていること、必要に応じて自由に演奏の動画を視聴してよいことを伝える。</p> <p>自分に合った学習の進め方を考えるようにさせる。二重奏の曲は、パート別に演奏の動画が見られるので、個別練習では必要に応じて利用してよいことを知らせる。</p>	ア イウ イウ ア
<p>右手の動きを使った低音の指使いを知り、音階の練習を行う。</p> <p>サミングの技法を用いた高音部の音階練習を行う。</p> <p>課題曲「カノン」の表現の</p>	1	2	<p>角度を変えた画面を視聴させ、正面から確認しにくい親指の動きに注意させる。</p> <p>穴に小さな隙間を作る左手親指の指使いに注意して動画を視聴するよう促す。</p>	イウ イウ

工夫をする。 自由曲「オーラリー」「おやすみ」「アニーローリー」の3曲の中から1曲を選び表現の工夫をする。				前時と同様、自分で考えて練習を進めることとする。	イ ウ ア
1、1、「レ」の指使いについて学ぶことを知る。 課題曲「きらきら星」の表現の工夫をする。 自由曲「情景」「威風堂々」「婚礼の合唱」の3曲の中から1曲を選び表現の工夫をする。	1	3		やの指使いを身に付けると、演奏表現に幅が出ることを課題曲や自由曲を視聴させて感じ取らせる。 必要に応じて自由に指使いを復習してよいことを伝える。 曲想を大切に美しい表現の工夫をしていくことを促す。	イ ウ ア
アーティキュレーションの変化が曲想に及ぼす効果を感じ取る。 A ポルタート B スタッカート C レガート D 組み合わせ 四つのアーティキュレーションについてタンギング、息の使い方注意しながら表現の工夫をする。 自由曲「アマリリス」「ふるさと」「見よ、勇者は帰る」の3曲の中から1曲を選び表現の工夫をする。	1	4		記譜上の楽譜と実際の演奏の状況を示す楽譜とを比べさせるとともに、演奏場面の動画を見せ、アーティキュレーションの変化が曲想に与える影響をつかみやすくする。 自分に合った学習の進め方を考えるようにさせる。二重奏の曲は、パート別に演奏の動画が見られるので、個別練習では必要に応じて利用してよいことを知らせる。	ア イ ウ ア

(2) 結果と考察

生徒がアルトリコーダーの正しい奏法を理解し、演奏のポイントをつかみやすいよう、また生徒自ら自分に合った学習の進め方ができるように、授業の中で本教材を使用した。

教師による提示教材として、プロジェクターで演奏のポイントを写した動画を見せながらの説明では、今まで確認しにくかった左手の親指の動きなどがはっきり分かり、勘違いをしたり動かし方が分からないという生徒もなく、学習内容がよく定着した。

個別学習の自由曲練習の場面では、演奏を視聴したり、一緒に演奏したり、指使いを確認したりと、コンピュータの画面を切替ながら、熱心に取り組む姿が見られた(図11)。

読譜力に自信が持てず自由曲の曲想を感じ取れない生徒にとって、動画で自由曲の演奏を視聴できる本教材は曲から受ける感じや雰囲気をつかむのに効果的であり、楽譜からリンクを設定した演奏場面の動画を自由に使い、視聴と練習を繰り返す中で、次第に曲想をとらえ演奏できるようになっていった。

授業後の生徒の感想は次のとおりであった。



図11 練習に取り組む生徒の様子

表 1 授業後の生徒の感想

パソコンを使えば映像で指使いが見れるし、教科書ではわからなかった曲のリズムなどがわかって、とても使いやすかった。楽譜だけではわからないメロディーや指使いがわかって助かった。これで技術が上がれば良いと思った。今後も利用したい。

とっても楽しめました。私はまだ指使いでできないところがあったけどパソコンのリコーダーの演奏で指使いがよくわかり、とても参考になりました。

音楽の特徴や、吹き方を工夫するのに参考になったのでいいと思った。

とてもわかりやすく教科書よりまとまっており、指使いが出ていて心配がなくなった。

パソコンであんなふうに行けると指使いや音がよくわかった。パソコンでやるとヤル気がでる。

とても良い参考にはなったけれど、吹き方は口が出てきてなかったのでわかりにくかった。でも息の入れ方は結構わかった。

私は今日の授業でパソコンが使えて、吹くスピードや正しい指の使い方を学べて、とてもよかったです。

また、生徒へのアンケートの結果では、「アルトリコーダー入門」が指使いなどの技術を高めるのに役に立ったと半数以上の生徒が答えていた(図12)。

以上のようなことから、本教材はアルトリコーダーの指使いや演奏の仕方を自分で確認しながら、基礎的な奏法を身に付けたり演奏の動画を視聴することにより読譜力に自信がないという不安を取り除き、意欲的な取り組みを促す効果があったと考える。

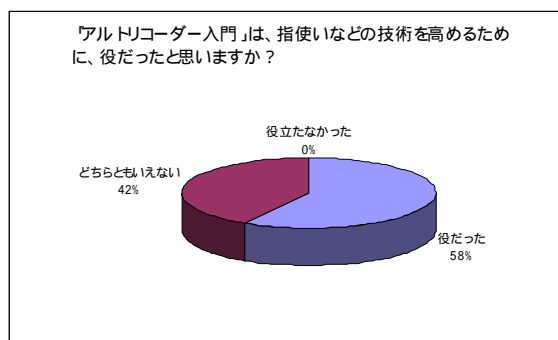


図12 アンケートの結果

研究のまとめと今後の課題

本研究では、表現・器楽領域のアルトリコーダーによる表現活動で、生徒の関心・意欲を高め、基礎的な奏法の定着を図り、曲にふさわしい表現を工夫できることを目指してマルチメディア教材を作成してきた。

アルトリコーダーの基礎的な奏法について、文字や図を用いて説明したページや演奏のポイントを撮影した動画を、学習段階に合わせて Web 形式を用いてまとめたことにより、生徒は自分のペースで何度も繰り返して視聴し、練習を行うことができるため、自然に正しい奏法を身に付けることができた。

今まで読譜力の差がアルトリコーダーの演奏意欲の差につながっていた面があったが、自由曲の演奏を撮影した動画を視聴することによる曲の理解がそれをなくし、曲想を感じ取ったり、演奏表現を工夫したり等、自信を持ってアルトリコーダーを演奏できるようになった。以上のことから、本教材はアルトリコーダーの初期の学習において、意欲的な取り組みを促し基礎的な奏法の定着を図るうえで有効であることが分かった。

今後は、さらに生徒の自由な思いを表現していく活動への支援を目指したい。特に、速さやリズムパターンを変えて、練習のためのゆっくりとした伴奏から曲に合った速さの伴奏を組み入れるなど、伴奏の充実を図っていきたい。

参考・引用文献

- ・音楽科教育実践講座「ソナーレ」
 - ・中学校学習指導要領 解説 - 音楽編 -
- 音楽科教育実践講座刊行会
文部省

